

# 体験コーナー進行例

小学生

地域教育推進ネットワーク東京都協議会 防災教育プロジェクト  
作成協力 NPO法人プラス・アーツ

コーナー	応急手当、毛布を使った搬送体験	
目標	発災時に、三角布や担架がなくても、周囲にあるもので応急手当ができることを知る。	
スタッフ数	4名 より正確な知識を伝えるために、消防署や救急インストラクター有資格者等と連携するとよい。	
準備物	応急手当 大判ハンカチ、ラップ、傘、ネクタイ、新聞、雑誌、ビニール袋、持ち手つきビニール袋 搬送 毛布、人形(消防署より借用、大きなカエル人形はプラス・アーツよりレンタル可能)	
会場 平面図	・机の上に応急手当グッズを並べる ・床に毛布を置き、人形を乗せる	
進行	2分	自己紹介、コーナー内容の説明 災害時に、どのようなことがおきるか、なぜ体験するのかを説明。 阪神・淡路大震災の時に、地域の方が負傷者を畳や毛布で搬送したことを伝える。
	5分	応急手当 ・大人のスタッフ1名が傷病者役となり、腕のケガの手当てを行う。 ・傷口に直接さわらないように手当てをする人は手をビニール袋で覆う、傘や新聞・雑誌を添え木の代わりにして、骨折箇所をネクタイで固定する、持ち手つきビニール袋を三角巾の代用として腕の固定に使う、などを説明しながら実際にしてみる。
	5分	毛布の担架搬送 ・毛布をそのまま持って、持ちにくいことを体験する。 ・毛布の両端をくるくるまらめて持ち上げる。 ・運ばれる人が安心するように、足先が進行方向になるように運ぶことを伝える。 ・目印とする三角コーンまでの往復など、重さを感じる距離を運んでみる。
進行上の 注意	傷病者の安全・安静を考えて手当て・搬送することを必ず伝える。	

